

日本精化株式会社

2022年3月期（2021年度） 機関投資家・アナリスト向け決算説明会 質疑応答（要旨）

日 時 : 2022年5月18日（水） 13:00~14:00

開催方法 : Web 会議

当社出席者: 代表取締役執行役員社長 矢野 浩史

上席執行役員管理本部長 山崎 晋

資 料 : 2022年3月期（2021年度）決算説明会資料（2022年5月18日開示）

※この資料は、Web 会議での質疑応答の要旨をまとめたものです。

質疑応答（要旨）

質問：（資本政策） 御社の2022年度の状況として、一部を売却したものの2022年3月末で政策保有株の残高が112億円ある一方、2021年度のROEは8.1%を達成しているが、今後もポートフォリオ整理が続くと思われる中で御社が目標としたいROE水準はあるか（「同業他社並みのROEを目指す」等）。

回答：現時点では指標は設定していない。ただし、2023年3月末で現行の中期経営計画が終了するので、次期の中期経営計画では経営指標を公表できるよう進めたいと考えている。

質問：（リピッド事業（医薬用リン脂質）） 市場は10%成長という説明があった一方、2022年度の御社の医薬用リン脂質の予想売上高は5%成長にとどまる見通しだが、市場と比べて低い成長の原因及び2023年度以降の成長見通しは。

回答：設備投資部分でご説明のとおり、医薬用リン脂質では、医薬用リン脂質新プラントとギリアド・サイエンシズ社（以下、「ギリアド」という。）とのアライアンスに基づく新工場という2つの工場建設をしている。このうち、ギリアドとのアライアンスに基づく新工場は、工場自体は2022年に完成予定だが、その後1年ほどかけて様々なテスト等を実施するため、本格稼働による売上高への寄与は2024年以降と見ている。一方、医薬用リン脂質新プラントについても、2022年度に完成して、（1年はかからないものの）テスト等を行うことになる。従って、2022年度の新プラントの売上高への寄与は難しいと見ている。

質問：（化粧品事業（化粧品用原料）） 2022年度売上高成長率+13%の前提は経済状況の好転が一番の背景なのか。顧客製品への採用で強く見込めるものはあるのか。

回答：化粧品事業（化粧品用原料）については、対象市場は2022年度も新型コロナウイルスの影響は一部残ると考えている。2021年度は海外での販売が伸長しており、引き続き海外での拡販活動を進めるが、活動方法に制限がある為、Webで代理店や顧客と接触しているが、大きな製品の採用が見込める状態ではないと見ている。

質問：（リピッド事業（医薬用リン脂質）） 新工場稼働本格化は2022年度からということだが、2022年度の5%成長というのはキャパシティが上限の中操業改善で成長する前

提なのか。

回答：キャパシティの問題もあるが、新工場の完成以降、顧客への品質確認等の期間が必要になるので、完成から本格稼働までは少し期間が必要となるという状況。なお、この内容も想定しており、計画通り進んでいると考えている。

質問：(2022 年度見通し) 営業利益の要因別増減の内容を教えてください。2022 年度は 26 億円の増収なのに、営業利益は増加しない見通しなので、どのような要因で利益が消えるのか（減価償却費は全体では増加しない）。

回答：詳細は差し控えるが、主な要因としては、医薬用リン脂質の先行投資があり、人員の採用や教育がある為、人件費等のコストが増加する見通し。また、昨今の原料高について、2021 年度は当社方針としての販売価格への転嫁がスムーズに進んだが、2022 年度は更なる原料高となっており、全てが転嫁できるわけではないという前提としている。なお、医薬用リン脂質の増員は、2022 年度は 17 名程度を予定している。

質問：(リピッド事業 (医薬用リン脂質)) 決算説明会資料 25 ページの生産能力について、医薬用リン脂質新プラントとギリアドとのアライアンスに基づく新工場それぞれ現有の 2 倍と記載されている。これはそれぞれのプラント及び工場の現有生産能力の 2 倍であるという意味か。

回答：そのようなご理解で問題ない。ただし、ギリアドとのアライアンスに基づく新工場は、新工場が稼働すると現有の専用工場は停止（但し、BCPの観点からバックアップとして必要に応じて稼働できる状態にする）ため、単純に生産能力が合計で 3 倍になるという意味ではない。一方、医薬用リン脂質新プラントは現有プラントに生産能力が上乗せされると見ていただいて問題ない。

質問：(リピッド事業 (医薬用リン脂質)) 工業用製品セグメントの中に占める医薬用リン脂質の売上構成比は。

回答：現在は公表していないので、回答を差し控える。次期中期経営計画にて、もう少しわかりやすい形での開示を検討したい。

質問：(2022 年度見通し) 2022 年度業績の為替前提を 1 米ドル=120 円、1 ユーロ=130 円としているが、売上高と営業利益の感応度を教えてください。

回答：1 米ドル=130 円、1 ユーロ=140 円になった場合、売上高は 7 億円、営業利益は 7 千万円程度増加するというイメージ。

質問：(リピッド事業 (医薬用リン脂質)) ギリアドとのアライアンスにかかる工場に関して、ギリアドからの資金支援はあるのか。また、当該工場における生産品のギリアド以外への提供は可能なディールになっているか。特許期間の是非についても言及頂きたい。

回答：ギリアドとのアライアンス関係については、契約により回答は差し控える。

以上